淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.105　2024年3月発行

〈 社会人の窓 25 〉

「川を学び　川とあそぼう」 大和川は元気です

小松清生

小学校４年生の社会科に「大阪の開発」という単元があり、大和川のつけかえや淀川の改修を学びます。２つの事業が大阪発展の基礎工事になったからでしょう。

江戸時代農民の願いが幕府を動かしたという歴史ロマンに感動し、私が大和川つけかえの学習に熱心に取り組み始めたのは1980年。1978年、堺市は上水道への大和川からの取水をやめ、1982年に大水害を経験。校区の北に大和川が流れている学校なのに、「危険な川に近づかない」と指導していました。

しかし、子ども達の家族や地域の人から、「昔はきれいだった」「赤ちゃんだったお母さんが大和川でごきげんの写真がある」「晩ご飯の魚をとりに行った」などと教えてもらい、安全できれいな川の復活を願い続けました。

1993年、大和川コンクールの歌詞募集で想いを託し、優秀賞をもらいました。

（３番）あゆ泳ぎ　かわせみ遊び　さぎが舞う
くらしをうつした　大和川
子どもたちの　夢のせて　青き流れに　よみがえれ♪

1996年に、大和川学習に取り組んだ４年生の絵で「大和川かるた」を発行しました。多くの方の協力、ご指導のおかげです。「よみがえれ大和川」のネットワークをひろげたいと呼びかけ、小学校など各地で喜んでいただきました。翌年大和川工事事務所（河川事務所）の河川保全モニターになり、1998年には副読本「わたしたちの大和川」編集作業がスタート。ここで澤井健二さんに出会い、お世話になったことが2008年の大和川市民ネットワーク結成につながりました。2004年、大和川つけかえ300周年の盛り上がりの中で、堺市役所内外の協力と連携がすすんだことも大きな力になりました。

大和川市民ネットワークができたおかげで、地元で動き始めていた川とあそぼう大和川クラブへの応援をえて、すばらしい親子が活躍するクラブになってきました。

大和川市民ネットワークは、「わたしたちの大和川」研究会を市民主導で再開し、副読本の改訂や「わたしたちの大和川」講座を続けています。「大和川の日」市民のつどいや「みんなの大和川」展示・交流会、「川のみりょく発見交流会」など…元気に活動してきました。

大和川は美しくなり、大和川かんさつ・あそぼう会は大人気。堺市浅香でアユやウナギ、スッポンが見つかります。私自身も、皆さんと一緒に各地を訪ね、学び続け、大和川への理解も大きく進みました。大和川つけかえについて新たな史料の発見や研究が進み、これまでの認識を改めることが多くありました。

今では、「元気だよ　みんなの大和川」と呼びかけ、あそび学ぶ活動をひろげています。

2016年、河川協力団体になり、2023年度に大和川河川事務所から委託をうけました。事務所１階のアユの水槽管理と年間通しての「みんなの大和川」わくわく広場事業で、多彩なイベントを企画しました。

活動の中で、元気なアユや在来のメダカを見つけたり、特技や専門知見をもつ方々の協力をえて、昆虫採集や植物観察をしたり、サイクリングの方々と愉快に交流したりしています。かしわら森の会との連携や、まちづくり仲間の皆さんが地元の物産を販売されるなど輪がひろがっています。

今年は大和川つけかえ320周年。龍田古道・亀の瀬が日本遺産となり、柏原市や三郷町と連携が進み、この春、大和川河川事務所は亀の瀬地すべり資料館を全面リニューアルします。この地域や大和川がさらに注目されるよう協力したいと思います。私は、元気な大和川と研究の前進をもりこんで、「大和川かるた」を改訂出版しました。市民が協力して、すばらしい記念の年にしたいと思っています。

（大和川市民ネットワーク事務局長）

イベント報告

淀川愛好会 総会 2024

２月 24 日(土)11 時から 13 時に摂南大学寝屋川キャンパス１号館３階の都市環境工学科会議室にて、淀川愛好会の総会が開催され、会員の方々と学生を含めて 10 名の 参加がありました。総会は、澤井健二相談役による会の生い立ちや変遷の話から始まり、参加した会員の自己紹介も行い、新会員の学生との新たな交流も生まれました。続いて、会費があまり払われてないという話題になり、イベントごとに募金をしてもらうのが良いのではないかといった提案がありました。また、2023 年度の事業報告と 2024 年度の事業計画についての話し合いも行われました。事業計画については、夏に開催するイベントに関して、近年の熱中症などのリスクを踏まえて、中止もしくは室内でイベントを開催することが検討されました。（石田ゼミ・北岡祥直、緒方秀飛）

2023 年度事業報告

日程	内容	開催場所
4 月 30 日(日)	大川クリーン活動	大阪ふれあいの水辺
5 月 20 日(土)	琵琶湖・淀川・大阪湾 流域圏シンポジウム in 大阪	大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
11 月 4 日(土) 5 日(日)	天若湖アートプロジェクト	日吉ダム周辺
11 月 19 日(日)	茨田イチョウ祭り	淀川・点野地区
2 月 24 日(土)	総会・近畿河川フォーラム・淀川討論会	摂南大学 寝屋川キャンパス

2024 年度事業計画

日程	内容	開催場所
4 月 28 日(日)	大川クリーン活動	大阪ふれあいの水辺
5 月 18 日(土)	琵琶湖・淀川・大阪湾 流域圏シンポジウム	大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
未定	天若湖アートプロジェクト	日吉ダム周辺
10・11 月頃	秋のイベント	未定
1 月頃	新年会	未定
2 月頃	総会・近畿河川フォーラム・淀川討論会	摂南大学　寝屋川キャンパス

総会の様子

第８回 近畿河川フォーラム　兼

第 26 回 淀川討論会

会場の模様

２月24日(土)14時から17時に摂南大学寝屋川キャンパス３号館311教室にて、第８回 近畿河川フォーラム　兼 第 26 回 淀川討論会が開催され、約50名の参加がありました。初めに淀川愛好会会長・伊藤譲先生の開会挨拶があり、近畿地方整備局の方には、河川協力団体の全国及び近畿の動向について説明していただきました。その後、芥川倶楽部、大和川市民ネットワーク、やましろ里山の会、NPO法人日本水防災普及センター、ねや川水辺クラブ、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会といった河川協力団体の方々による活動報告、今後の展望発表が行われました。続いて、近畿における舟運文化の伝承バスツアー（淀川三川合流域・淀川下流域・琵琶湖部・大和川）の報告が行われて、休憩を挟んだあと、テーマとして、舟運文化の継承・伝承について討論がありました。手を挙げる人が複数いるほどの白熱した議論があり、その中でも文化をただ残すと言うのではなく、なぜその文化を残さないといけないかという理由がないと若者も興味を持たないのではないかという意見

はとても共感しました。

討論会が終わった後には、ぽぽっぽくらぶの方々に３曲オリジナルソングを歌っていただきました。川をテーマにしたユニークな曲、歌に加えダンスもあり、とくに白熱した討論会後の心地よい癒しとなる素晴らしい演奏でした。その後、17時半から2023年完成した摂南大学３号館のラーニングコモンズで懇親会が行われました。（石田ゼミ・北岡祥直）

いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

地域対話フォーラム 2024 in Osaka

３月２日(土)に大阪市中央公会堂で、いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト 地域対話フォーラム 2024 in Osaka に各地から約250名の参加があり、開催されました。当フォーラムは、2022年度から開始した大阪関西万博に向けての３年プロジェクトの一環として、2022年度は愛知、2023年度は今回の大阪、2024年度は東京で全国フォーラム、そして2025年度は大阪関西万博の会場で国際フォーラムを開催することになっている大プロジェクトです。

初めに開会挨拶、そしてポスターパネル展の44件の紹介があり、次に基調講演１として、第３回世界水フォーラム事務局長の尾田栄章先生による「川と水そして流域圏 行基の本願を世界へ、そして未来へ！」の講演をいただき、続いて基調講演２では、JT生命誌研究館名誉館長の中村桂子先生に「いのちの物語（生命誌）を支える水―長い時間と大きな広がりの中で―」の講演をいただきました。二つの講演後休憩があり、休憩中にもスペシャル企画として発表や、歴史ガイドツアーが開催され、休憩中でも楽しめる企画となっていました。

昼食・休憩後は、午後の部としてパネルディスカッション１と２があり、１は「大阪湾流域圏で考える水と環境・生業・文化」というテーマで三和伸彦先生、竹門康弘先生、鈴木康久先生、コーディネーターの澤井健二先生による討論が行われました。ポスターパネル展コアタイムと休憩後、２は「大阪・関西万博を契機に、世界に何を発信するのか！」というテーマで、福井昌平先生、稲本正先生、ウスビ・サコ先生、コーディネーターの古澤礼太先生による討論がありました。会場の方々からの質疑応答もあり、参加者を含めた討論が繰り広げられました。

中央公会堂の入口では、河川・水との取り組みを発表するポスターパネル展が開催されて、様々な団体によるポスター発表があり、石田ゼミも今年度の卒業研究をまとめたポスターを掲載しました。最後に閉会挨拶の際には、ポスターパネル展コーディネーターとして石田裕子先生による総評もありました。（石田ゼミ・北岡祥直）

会場の模様

イベント案内

大川クリーン活動＆川で学び・つながる

日時：2024 年４月 28 日（日） 10 時～14 時頃
場所：大阪ふれあいの水辺（源八橋周辺）
内容：清掃活動&水辺の生き物観察、E ボート乗船
参加費：無料
共催：淀川愛好会、おお川水辺クラブ
連絡先：淀川愛好会事務局

第６回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏

シンポジウム in 大阪

日時：2024 年５月 18 日（土）
場所：大阪工業大学梅田キャンパス（OIT 梅田タワー）２階
テーマ：災害と舟運（仮）
主催：琵琶湖･淀川･大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会
共催：摂南大学
協力：学校法人常翔学園　　参加費：無料

天若湖アートプロジェクト 2024

「あかりがつなぐ記憶」

日時：未定
場所：日吉ダム（天若湖）周辺
内容：水没家屋の湖面にソーラーライトを点灯
主催：天若湖アートプロジェクト実行委員会
参加費：無料　　参加申込：不要
連絡先：淀川愛好会事務局

〈 学生の窓 25 〉

今年度を振り返って

緒方秀飛

この一年間で石田ゼミの活動として最も大きいと感じたのは、天若湖アートプロジェクトです。延期やあかり設営地点の縮小などがありましたが、数か月にわたる準備の末に湖面に点灯された景色は当日の星空とも相まって、とても幻想的で忘れることのない記憶となりました。

奥村和樹

私は本年度、芥川で卒業研究を行いました。芥川での研究を選んだ理由は元々生物系の研究をしたかったことや、地元が近いことから選択しました。実際に研究を行う上で、夏は暑く、冬は寒い環境での調査となり、大変なこともありました。しかし、調査から多くの魚種が遡上していることや産卵場所の推定を行うなど、研究成果が目に見える結果として表れることで、とてもやりがいを感じることができ、充実した卒業研究になりました。

北岡祥直

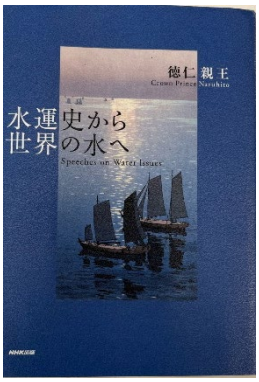
自分がこのゼミに入って一番驚いたことは、中学校の部活の顧問だった河合典彦先生に再会したことです。まさか中学時代に行っていたような活動を大学生になってするとは微塵も思っていなかったです。しかし、その時に教えていただいた二枚貝や淀川などの知識のおかげで様々なイベントや自分の卒業研究もより楽しいものになったと思います。

村橋一星

僕は、今年一年を振り返ってより人々とのつながりを感じることができました。石田ゼミで行ったさまざまな活動では人々の温かみを感じ、より成長できたと思います。卒業研究では澤井先生に協力していただき、自分のしたい研究ができました。ここの研究室で良かったと思います。

（摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ４年生）

書籍紹介「水運史から世界の水へ」



著者：徳仁親王
発行：2019 年　NHK出版
定価：1600 円
目次：第１章 平和と繁栄、そして幸福のための水　第２章 京都と地方を結ぶ水の道　第３章 中世における瀬戸内海水運について　第４章 オックスフォードにおける私の研究　第５章 17～18 世紀におけるテムズ川の水上交通について　第６章 江戸と水運　第７章 水災害とその歴史　第８章 世界の水問題の現状と課題

会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしています。ご入会を希望される方は、淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も、随時募集しています。

会員の方は、今年度の年会費 3000 円（学生 1500 円）を納入して下さい。

会費は事務局にお届け下さるか、下記の口座にお振込み下さるようお願いします。

銀行振込口座：りそな銀行 寝屋川支店 普通預金
口座番号：2230030 口座名義 淀川愛好会

編集後記

地域対話フォーラム 2024inOsaka のパネルディスカッションにおいて、竹門康弘氏が「新たな百姓生活の提案」をされました。百姓は、米をつくり、涼しい風、メダカ、カエル、赤トンボ、ゲンゴロウなどの生態系を育て、美しい心地よい風土を守ると共に、地球温暖化防止にも寄与しています。ところが、ともすると百姓は社会から冷たく扱われているのです。

我々は絶滅危惧種になると保存しようというが、百姓が絶滅危惧種になったら、どうなるのだろうか。心地よい棚田や田園風景や日本の心地よい風土が消えていくのか。

編集長 岡﨑善久（岡﨑善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508　寝屋川市池田中町17-８　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125
HP： https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/
E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp